

技術分野分類 47 薬学およびその関連分野

技術キーワード 薬局、薬歴、副作用、安全対策

産業分類

内容

概要

本研究は、薬局で日常的に発生する薬歴およびレセプトの情報を利用して、薬剤師業務をサポートするシステムの構築と新たなエビデンスの創成を目的としています。

これまでに、薬歴の記載を調査した結果、必要な患者の同定とその実施サポートの必要性が示唆されました。また、薬歴・レセプト情報の解析によって新たなエビデンスの創成につながる結果が得られました。

従来技術・
競合技術
との比較
(優位性)
本技術の
有用性

【研究背景】 薬局機能の基盤として、患者の薬物療法における安全対策への取り組みが重要である。薬局で日常的に発生する薬歴、レセプトの情報を利用し、安全対策に利用可能な情報を日常的に継続的に創成できれば、薬局における安全対策の基盤として大きな力になると考える。また、外来患者は入院患者と比べて圧倒的に多いが、その医療情報を活用した研究は少なく、そこから得られるエビデンスは重要である。

そこで、我々は、薬局が保有する薬歴、レセプトの情報を多施設から収集し、**薬剤師業務をサポートするシステムの構築と新たなエビデンスの創成**を目的に研究を行っている。

【研究方法】 薬局における業務改善・質保証として、当然薬剤師が行うべき副作用モニタリングがどの程度薬歴に記載されているかを解析した。また、患者の日常生活に影響しうるマイナートラブルと医薬品の関連をビッグデータを解析する手法を用いて検討した。また、上記は研究題材の一例であり、右図に示すように医薬品の有効性・安全性・使用性情報、薬局の業務改善や質保証、アウトカム改善やエビデンス創成など多様な見地から解析を行っている。更にはAIを活用し、半自動的に解析結果が得られるような仕組みを構築したいと考えている。

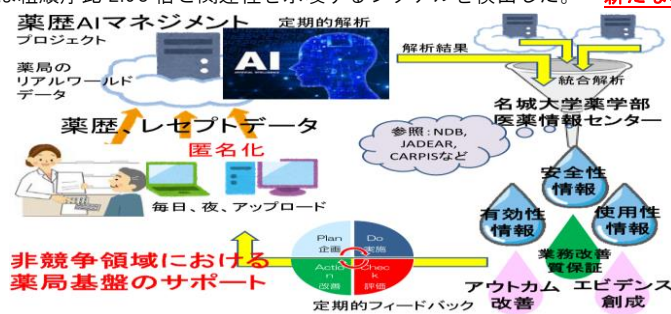
【結果の一部】・チクロピジンにおける肝障害モニタリングの実態

薬歴を調査したところ、実際に薬剤師がモニタリングを行った記録があったのはわずかであった

⇒**モニタリングの必要な患者の同定とその実施サポートが必要**

・DPP-4 阻害薬における便秘リスクの検討 Sequence Symmetry Analysis という手法により DPP-4 阻害薬の便秘

リスクは粗順序比 2.98 倍と関連性を示唆するシグナルを検出した。⇒**新たなエビデンスの創成**



技術シーズ保有者 名城大学 薬学部 薬学科 助教 酒井 隆全

技術シーズ照会先 名城大学 学術研究支援センター 052-838-2036/052-833-7200 sangaku@caml.meijo-u.ac.jp

■知的財産

■試作品状況

無

提示可

提供可

作成日 2019 年12月13日